

付着生物ラーバ情報

マボヤのラーバが出現しました

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは11月12日に奥内沖で0.8個体/m³、11月12日、11月20日ともに久栗坂沖で0.6個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは11月12日に奥内沖で23.3個体/m³、久栗坂沖で18.3個体/m³、野辺地沖で25.0個体/m³、川内沖で10.9個体/m³、11月20日に奥内沖で25.8個体/m³、久栗坂沖で11.7個体/m³、野辺地沖で2.3個体/m³見られました(表1)。

(3) マボヤ

ラーバが11月20日に奥内沖で0.8個体/m³、卵が11月12日、11月20日ともに野辺地沖で0.8個/m³見られました(表1、図3)。

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は15℃前後とユウレイボヤが産卵する水温になっています。10月以降の奥内沖と野辺地沖の**累積ラーバ出現数は5.5個体/m³以上と付着数が多くなる目安である5.0個体/m³より多い状況です。12月にかけてラーバが本格的に出現することから未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している海域では親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。**

また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**することが分かっているため、**施設を沈めすぎない**ようにしましょう。

(2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、**秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しない**ことが分かっています。

3 マボヤ天然採苗情報

卵が出現したことから、**今後ラーバが本格的に出現**すると考えられますので、現在が天然採苗するための採苗器設置適期となっています。

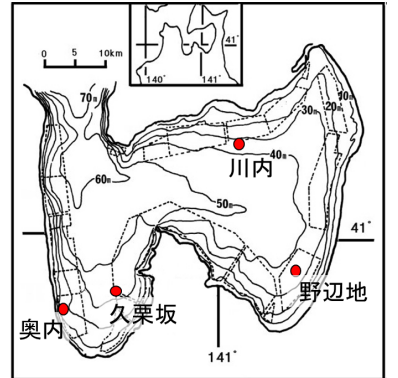


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マボヤ	
					ラーバ	卵
奥内沖	R6.11.12	0.8	23.3	0.0	0.0	0.0
	R6.11.20	0.0	25.8	0.8	0.8	0.0
久栗坂沖	R6.11.12	0.6	18.3	0.0	0.0	0.0
	R6.11.20	0.6	11.7	1.1	0.0	0.0
野辺地沖	R6.11.12	0.0	25.0	2.3	0.0	0.8
	R6.11.20	0.0	2.3	0.0	0.0	0.8
川内沖	R6.11.12	0.0	10.9	1.6	0.0	0.0

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

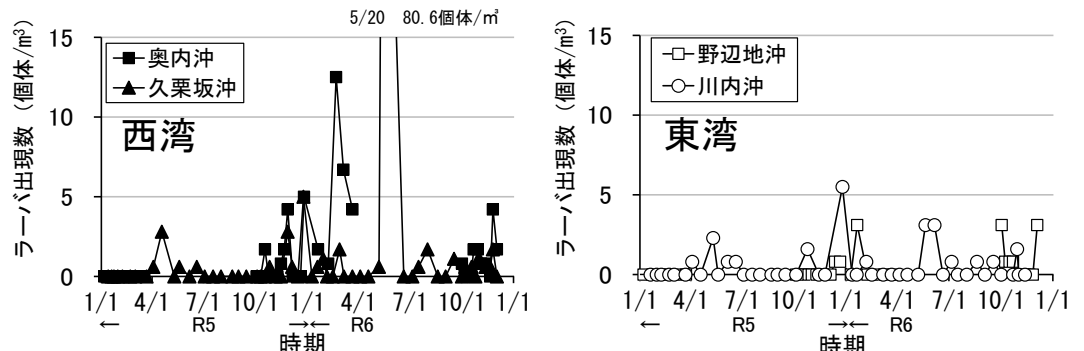


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和5年1月~令和6年11月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

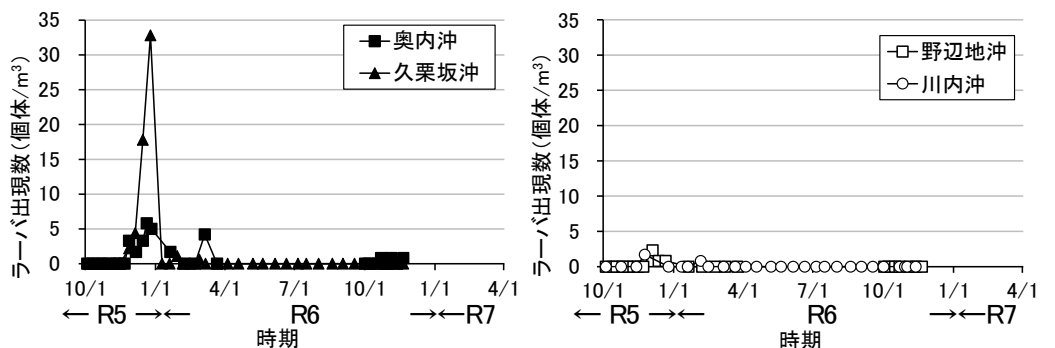


図3 マボヤラーバ出現数の推移(令和5年10月~令和6年11月)
・平成28年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾33個体/m³、東湾5個体/m³

